



鹿児島大学総合研究博物館 第20回市民講座

工芸と観光

バリ島におけるビーズたちの変身



人間は先史時代から、貴石や貝に穴をあけて紐をとおして身につけてきました。ガラスが発明されてからは、ガラス・ビーズは貴重な装身具になりました。大航海時代には、ヨーロッパ(ベネチア)のビーズがアジア、アフリカに大量に持ち込まれ、現地の金、銀の装身具と交換されました。その頃のビーズは、アンティークとしてきわめて稀少で高価です。そして、また、今日の観光ブームのなか、多彩なガラス・ビーズのアクセサリがアジアから世界に広がっています。主役のガラス・ビーズについて、おもにインドネシアを例にお話します。ひとつひとつのビーズの歴史と美しさに気付いていただくと幸いです。

講師 松井 健 (東京大学東洋文化研究所・教授)

レクチャーと
コレクション展示

2011年6月4日(土) 会場 レトロフトMuseo

鹿児島市名山町2-1レトロフト千歳ビル2F

先着40名・入場無料 13:00 開場 13:30~15:00 レクチャー

鹿児島大学総合研究博物館

《参加申込み・お問合せ》 鹿児島大学総合研究博物館(担当:落合) 〒890-0065鹿児島市郡元1-21-30 tel 099-285-8141

《申込み方法》 ①氏名、②住所、③電話番号、④メールアドレスをメール(info@kaum.kagoshima-u.ac.jp)またはファックス(099-285-7267)でお知らせください。申込み者が40名を越えてご参加いただけない場合には、メールまたはファックスで返信いたします。 個人情報には本イベント開催のために利用し、その目的以外での利用はいたしません。